## インドネシア料理を楽しむ会

日時:2014年11月27日(木)

「インドネシア料理を楽しむ会」をインドネシア料理店ワルン・マタハリにて開催しました。毎年、同店オーナーシェフのイ・ワヤン・スラスナさんによる料理教室を開催しておりましたが、これまでインドネシア料理を召し上がったことがない方にも、まずは本格的な味を体験していただこうと、初めて企画したイベントです。応募開始2、3日でお申込みが定員に達する人気ぶりでした。次回の開催をお楽しみに!

インドネシアクイズも盛り上がりました

## インドネシア語講座

日時:2014年9月2日(火)～11月11日(火)

今年度も広島市留学生会館においてインドネシア語講座(全10回)を開催しました。講師には広島在住のアフマッド・イーサン先生を迎え、初級向けの簡単な会話・文法を教えていただきました。

今年度の受講生は、これから仕事でインドネシア語が必要になる方が多く、初めて耳にするインドネシア語を熱心に学ばれていました。

## インドネシアからご寄稿

広島銀行(PT Bank Negara Indonesia ご出向)
中山　紘 様

広島銀行からインドネシアの現地銀行であるバンクネガラインドネシアに出向しております中山と申します。現在、ジャカルタにあるバンク・ネガラ・インドネシア本店のジャパンデスクに勤務しており、主に日系企業様向けに各種の金融サービスをはじめ、当地のビジネスに関する様々な情報を提供する業務を行っております。

今回は、ジャカルタの生活習慣等について「衣・食・住」のテーマに分けて、これまでの駐在生活の中で感じたことをお伝えさせていただきます。なお、先日ローカルスタッフがジャカルタのことを一言で、“Complicated(複雑)”と表現していましたが、言い得て妙なこの言葉の通り、国内の生活水準に大きな幅がある当地において、一般論としてその習慣等を語ることはとても困難ですので、本レポートには相当に私の主観が入っていることをあらかじめご了承ください。

はじめに「衣」についてですが、ジャカルタの人々は流行に敏感でお洒落に気を遣っています。ショッピングモールに行くと、日本の若者にも人気のファストファッションの店が数多くあり、中間から高額所得者層の買い物客で賑わっています。さらに、ジャカルタは一年中暑い日が続く都市にも関わらず、男女問わずお洒落に気を遣う人は、長袖シャツを着てジーンズ等の長ズボンを穿いています。真昼にも関わらず、汗ひとつ掻くことなく平気な顔をして街中を歩いている彼らの姿にはいつも驚かされます。なお、暑いからと半袖Tシャツに短パンでビーチサンダルを履いているのは、欧米やオーストラリアからの観光客か日本人の駐在員のみのようです。

また、インドネシアの伝統衣装であるバティックの中にも“slim fit”とサイズ表示された細身のシルエットのものがあるなど、ファッションの流行を意識したものが数多く見られます。その他に伝統的なものとして、ムスリムの女性が頭部に巻くヒジャブがあります。インドネシアに限らずイスラム圏の国の女性が着用するもので、黒一色をイメージすることが多いですが、ジャカルタでは様々な色や柄、素材が見られ、それぞれがお気に入りのヒジャブでお洒落を楽しんでいます。また、ムスリム向けのファッション誌には流行の巻き方やアレンジ方法が掲載されており、それらに関連したムスリム向けアパレルを専門に取扱うショッピングwebサイトが、新たなビジネスとして注目を浴びています。

次に「食」についてですが、ジャカルタではインドネシア料理の他に、日本食や中華、韓国料理、イタリア料理などさまざまなジャンルの食事を楽しむことができます。なかでも、日本食の人気は高く、近年は日本の有名ラーメン店が相次いで出店しており、連日多くの人で賑わっています。各店とも、日本の店と同じく豚骨ラーメンを主力商品としていますが、インドネシアのムスリムは寛容と言われる通り、豚を使ったラーメンが多くの人々に受け入れられています。もちろん、一部の店では豚のかわりに鳥を使うなど、当地の事情に配慮した商品展開を行っています。

最後に「住」についてですが、当地での生活に最も大きな影響を与える問題は、やはり交通渋滞です。ジャカルタ中心部の3in1制度(朝夕の交通ラッシュ時、スディルマン通りとタムリン通りにおいて、1台の車に3名以上が乗車してない場合は罰則が課される制度)に加え、2014年12月から中心地の一部区間でオートバイの乗り入れ規制が始まりました。いずれも根本的な原因の解決には繋がらないため、現在工事中のMRT(ジャカルタ都市高速鉄道)の早期完成を願うばかりです。

以上、インドネシアでの駐在生活について、ごく一部ですがご紹介させて頂きました。引き続き当地で勤務しておりますので、ジャカルタにお越しの際は是非お声掛けください。

Hiroshima-Indonesia Association
News letter

# 広島インドネシア協会会報

第25号
2015年 1月30日

編集・発行
広島インドネシア協会
広島ガス㈱広報環境部内
〒734-8555
広島市南区皆実町2-7-1
TEL(082)252-3000

## 総会

日時:2014年6月10日(火)

2014年度総会を、ANAクラウンプラザホテル広島において開催しました。駐日インドネシア共和国特命全権大使に着任されたユスロン・イーザ・マヘンドラ大使ご夫妻をはじめとする来賓の方々を迎え、約190名の方々にご出席いただきました。総会ではユスロン・イーザ・マヘンドラ大使より、当協会行事への初めての訪問に際し、会員の皆さま方への感謝のことばをいただきました。

引き続いての交流会では、経済連携協定に基づき広島にて看護・介護の勉強を続けておられる方々からの近況報告や留学生からの踊りが披露され、盛会のうちに終了しました。

### 総会&交流会

総会

ユスロン・イーザ・マヘンドラ大使 ご挨拶

広島市 及川市民局長の代読による
松井市長からのご祝辞

高木監事(広島信用金庫会長)による
乾杯ご発声

浅原副会長(広島大学学長)による
閉会ご挨拶

留学生のナディアさんによるジャワ島
西部伝統の踊り

大使ご夫妻を囲んで

阿品土谷病院のトジさん(現在は中島土谷クリニック)
正寿園のアナさん、トウリさん、マデさんによる近況報告

# 独立記念祭　日時:2014年8月19日(火)

インドネシア共和国の独立69周年を祝う記念祭をシェラトンホテル広島において開催しました。駐日インドネシア共和国大使館参事官のリッキー・スヘンダール様をはじめとする来賓の方々を迎え、約220名もの方々にご参加いただきました。

記念祭では、国内外でご活躍の箏奏者・木原朋子さんによる「さくら」「インドネシア・プサカ」などの両国の美しい調べに耳を傾けながら、会員同士の交流を深めました。

会員の皆さまが楽しみにされている留学生の踊りの披露に続き、田村会長から帰国する留学生一人ひとりに記念品の贈呈があり、帰国留学生を代表してトゥスワディさんからご挨拶をいただきました。

今年の独立記念祭も大勢のインドネシア留学生やご家族の方々にお越しいただき、賑やかなお祝いの会となりました。

帰国留学生へ記念品贈呈

ご来賓の皆さま

木原朋子さんによる美しい箏の演奏

アニンディタさんのバリ舞踊

帰国留学生 トゥスワディさんのスピーチ

たくさんのインドネシア留学生が集まりました

田村協会長 開会挨拶

リッキー・スヘンダール参事官ご挨拶

広島県 梅木地域政策局長
ご挨拶

広島市 谷川国際平和推進部長
乾杯ご発声

ひろしま国際センター
安田専務理事 閉会ご挨拶

# 講演会　日時:2014年2月26日(水)

ホテルグランヴィア広島において、医療法人社団おると会 理事長 浜脇純一様を講師に迎え、講演会を開催しました。
「インドネシアとの医学国際交流」という演題で、ご講演をいただきました。ご講演の要旨をご紹介します。

## 1 はじめに

私の病院では、インドネシアからの医学留学生を受け入れています。インドネシアとの医学国際交流のお話をさせていただくにあたって、まずは当病院について少し紹介をいたします。

1978年に開院した「浜脇整形外科病院」では、開院当初から救急医療に取り組んでまいりました。1997年に病診分離をいたしまして、2004年には「浜脇整形外科リハビリセンター」を開院しました。これまで非常に多くの方に支えられてまいりましたが、お世話になった方々に直接の恩返しができないものの、違った形で恩返しをしたいとの思いから、ささやかではありますが、地域に貢献するスポーツ医療や、インドネシアからの医学留学生を受け入れて育てるといった活動に取り組んでいます。

また、当病院は、脊椎脊髄外科、リウマチ・関節外科、外傷外科、スポーツ整形外科といった専門性を持っており、手術や入院にも対応していて、医療現場を学ぶ研修医の方にとっては、非常にバランスが取れた整形外科の病院ではないかと自負しています。

## 2 インドネシア留学生とのご縁

さて、インドネシアとの医学国際交流ですが、もともと、私はカナダに留学していた折に感じた“カナダ－日本の医療”の関係性と同じように、“日本－発展途上国の医療”において、医学を通しての国際交流を深められないものかと考えていました。そのような折に、“日本とインドネシアの医学交流の父”と呼ばれる神戸大学名誉教授の柏木大治先生とのご縁をいただいておりましたところ、広島大学に留学していたインドネシア留学生が、神戸で柏木先生に出会って、私を訪ねるようにと紹介されたそうです。その留学生は、ヒアルディンという医師で、臨床を学びたいとのことでしたから、手術室にも入って研修を重ねていただきました。

そして、ヒアルディン医師は、インドネシアに帰ってから初代の整形外科教授となりました。それが、当病院でのインドネシアとの医学国際交流の始まりとなりました。

## 3 整形外科の歴史－日本そしてインドネシア－

インドネシアの整形外科の歴史を考えるにあたって、まず日本の整形外科の歴史からお話します。1900年、明治政府の命を受けて、外科的矯正術を研究するために、当時の外科医 田代義徳先生がドイツ・オーストリアへと研修に行かれました。

そして1906年に初めて東京帝国大学医科大学に整形外科学講座が設立され、田代先生がその初代教授となりました。その翌年に京都帝国大学医科大学に整形外科学講座設立、1926年に日本整形外科学会が創立され、「整形外科」というものが日本全国に広まり始めました。その当時の整形外科専門医の数は118人で、整形外科と言えば、二重まぶたにしたりするような美容整形と思われがちな時代でした。

そのような時代から、1976年に描かれた無医大の県を解消するための「一県一医大」構想により、医大への入学定員も増え、今では、整形外科専門医の登録医師数は、17,280人(H25.8)にものぼっています。

一方のインドネシアですが、皆さまご承知の通り、人口は2億4千万人、日本の倍近くもの人口となっています。赤道に近く、端から端まで5,000km以上ある、非常に広い国です。私の病院では、そのインドネシア　マカッサルのハサヌディン大学から留学生を受け入れています。

インドネシアには医学部が73校ありますが、日本の約2倍の人口にも関わらず、日本とほぼ同数程度の学校数です。

マカッサルのハサヌディン大学では、1999年に外科の中から整形外科が独立しました。日本で外科から独立して整形外科が誕生して地方に広まったように、同じことがインドネシアでも起きたのです。

柏木先生に紹介していただいたヒアルディン医師が初代の整形外科分野の教授になられて以来、私の病院に来られた医学留学生の方は14人、今15人目の方が来られています。

インドネシア全体では整形外科専門医はまだ618人で、マカッサルにはまだ17人しかいないと聞いています。そのうち、私の病院で研修をしていただいた方たちがほとんどを占めています。広島だけでも442人の整形外科医がいますので、いかに日本が恵まれているかがお分かりになるかと思います。

## 4 おわりに

私たちの子どもや孫の代には、インドネシアは必ず経済的にも医学的にも先進国の仲間入りをすると思っています。インドネシアに帰られた医学留学生の皆さんも、私の病院で学んだことを、母国で生かしたいと情熱をもって頑張ってくれています。
将来、私のもとで学ばれた医学留学生の皆さんが、母国インドネシアで大きな花を咲かせてくれることを願っております。

(下段左)ヒアルディン名誉教授　(下段右)パツルーシ教授兼学長